

2 高等学校におけるキャリア教育の特質

(1) 高等学校におけるキャリア教育の全体像

高等学校におけるキャリア教育の全体像

キャリア教育は、
一人一人の社会的・職業的自立に向けて
必要な能力等を育てる教育です。

キャリア教育の推進は、今日の高校生にとって大きな意義を持っています。その一端は、本パンフレットの冒頭に「データが語る生徒たちの今」としてお示した通りです。

現在、日本では厳しい経済低迷が続く中で雇用の在り方の変化が更に進んでいますが、だからこそ、なお一層将来の職業や生き方についての自覚を促し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力等を育成する必要があります。もちろん、高等教育への進学希望者に対しても「大学等の向こう側にある社会」を意識させ、それぞれの将来について考えさせることは必要不可欠です。

近い将来、自らを生きながら社会に参画し、そこで自己の立場に応じた様々な役割を果たしつつ自立できる力の育成を目指して、高等学校におけるキャリア教育を一層推進させましょう。



平成22年度から、
キャリア教育をすべての高等学校で。
— 今までの取組の更なる
拡充・深化が求められます。

平成22年度から先行実施される新しい学習指導要領の総則では、「生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること。」と明示されました。

1 教科・科目を通じたキャリア教育

- 学習内容の活用場面を伝える
- 学ぶ面白さや楽しさを伝える
- 学びを通して培われる能力・態度の意義を伝える
など日々の授業を生かした取組

2 総合的な学習の時間を通じたキャリア教育

- 横断的・総合的な学習や探究的な学習による取組

3 特別活動を通じたキャリア教育

- ホームルーム活動
- 生徒会活動
- 学校行事
それぞれの特質を生かした取組

小学校でのキャリア教育

中学校でのキャリア教育

様々な取組をつなげ社会的・職業的自立に向けて必要な能力等を体系的に育てる

高校1年生のキャリア発達課題

- 新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する
- 学習活動を通して自己の能力適性を理解する
- 様々な情報を収集し進路選択の幅を拡げる

高校2年生のキャリア発達課題

- 他者の価値観や個性を肯定的に認め、受容する
- 学習活動を通して勤労観・職業観を育成する
- 自己の職業的な能力適性を理解し将来設計を図る
- 進路実現に向けた課題を理解し、検討する

📖 キャリアの語源

「キャリア」(CAREER)は中世ラテン語の「車道」を起源とし、英語で、競馬場や競技場におけるコースやそのトラック(行路、足跡)を意味するものであった。そこから、人がたどる行路やその足跡、経歴、遍歴なども意味するようになり、このほか、特別な訓練を要する職業や生涯の仕事、職業上の出世や成功をも表すようになった。(中略)なお、遺伝子の保有者、伝染病の保菌者などを指す「キャリア」(carrier)は、運ぶ(carry)からの派生語であり、違う語源の単語である。

(厚生労働省「キャリア形成を支援する労働政策研究会」報告書〔平成14年7月〕より)



📖 キャリアの定義

個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積

「キャリア」とは、一般に生涯にわたる経歴、専門的技能を要する職業に就いていることなどのほか、解釈、意味付けは多様であるが、その中でも共通する概念と意味がある。それは、「キャリア」が、「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念であり、個人から切り離して考えられないということである。また、「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。

(文部科学省「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引」〔平成18年11月〕より)

